

「バウルー学童保育所建設計画」署名式



(右から)丸橋総領事代理、シモネッチ会長

2007年2月27日、当館において、当館と愛と博愛スピリティスト・センター(以下CEAC)との間で、草の根・人間の安全保障無償資金協力に対する贈与契約署名式が行われ、丸橋次郎総領事代理、CEACのリチャード・シモネッチ会長他関係者3名が出席しました。

署名式において、丸橋総領事代理は、この協力が団体及びバウルー市民の役に立つことを期待していると挨拶しました。

それを受け、シモネッチ会長は「バウルー市には大きな日系社会があり、幼いころから日系人と交際し、彼らの規律正しさ、親に対する尊敬、勤勉性に感心してきた。今回の計画を通して再び日本人と交わることができ、昔から持っていたこの印象を再確認した。我々はよい仕事をしたいと思っているが、施設がその制約となっている。今回日本国の協力を受け、日本人の規律正しさ、勤勉性、献身を手本として、地元の貧しい人たちのために活動を続けていきたい。」と述べ、謝意を表しました。

案件名：バウルー学童保育所建設計画

被供与団体：愛と博愛スピリティスト・センター

プロジェクト実施地：サンパウロ州バウルー市

契約署名日：2007年2月27日

供与限度額：89,978米ドル

件概要：CEACはバウルー市の貧困層を対象に学童保育所を6箇所経営しています。その内、ヴィラ・ジロ区の施設には現在児童90名(3~14歳)を受け入れており、家族に対しては職業訓練、心理的相談、基礎食料品バスケット提供を行っています。また現施設が手狭であるため、3~6歳児については近所の教会の一室を借りて対応しています。さらに、老朽化している現施設は衛生、安全面について政府関係機関の指摘を受けていますが、資金と場所がなく、応えられません。

今回の協力は、学童保育所(418,56 平米)を児童の 80%が住むパルケ・ダ
ス・ナソンエス地区に建設するものです。

供与品目：418.56 平米の学童保育所(教室、児童アテンド室、食堂、台
所、洗濯場等)



通学する児童たち



施設が狭いため、庭で勉強し、